

令和7年度(令和6年度実施事業分)主要事業評価シート					No.	34-1
PDCA	主要事業名	文化財等公開活用事業	部課名	教育部博物館	担当	谷川
					内線	23-7173

P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 1 - 2 - 2 単位施策： 文化の振興と継承 全体事業期間： 令和 6 年度 ~ 6 年度 全体事業費等： 3,108 千円 会計 一般会計 歳出科目： 09.05.01.04.02	目標項目（予算計上時に作成） 予算見積書で活用	
	事業概要等		指定文化財や登録文化財、文化財には指定されていないが地域の貴重な資料、博物館の収蔵資料等を、博物館を拠点とした展示や講座、情報発信等の事業概要： 公開活用を行うことで、市民自らが文化財等の保存継承の担い手として活躍していくための意識を醸成し、その基となる郷土の自然、歴史、文化に対する愛着と誇りを育てる。
	事業目的		博物館や地域で所蔵する未公開資料等を活用し、市民自らが文化財等の保存継承の担い手として活躍するための基礎として、地域への愛着と誇りを育てる。
	事業内容		物理的制約の中で五感で体感する展示や講座を充実するために、収蔵資料のデータ化や、OA機器の活用、文化財の担い手等による講演を行う。
	問題点		郷土の自然、歴史、文化に対する愛着と誇りは、本物を五感で体感し、感動
	課題等		することで育まれるが、展示や講座を行うスペースには限りがある。
	予算額		主要事業とする理由
	3,108 千円		博物館を拠点とし、半田市の貴重な文化財等（指定・未指定）を活用することで、市民の文化的教養や保護意識の向上を図る事業である。
	財源内訳		得られる成果
	市費 3,093 千円		市民が地域独自の資源の大切さを理解し、自らが文化財等の保存継承の担い手として活躍していくための意識を高めることができる。
国費 0 千円	目標値や目指すべき状態		
県費 0 千円	令和4年度 令和5年度 令和6年度 単位		
その他 15 千円	半田の歴史や文化に関心を持っている市民の割合		
	実績値 52.24 44.2 — %		
	目標値 — 53.0 55.0 %		

D 実績られた成果と	決算額 2,960 千円	得られた成果	評価項目（決算時に作成） 主要施策の成果報告書で活用
		山車の展示替えを行い、それにともない山車組による三番叟(前棚人形)の披露やお囃子演奏を行った。また、収蔵資料の一部をデータ化したものをデジタルサイネージで公開し、来館者が気軽に見られるようにした。さらに、半田市文化財ガイドマップの内容を更新して関係者に配布をした。	
		成果指標	
		半田の歴史や文化に関心を持っている市民の割合	
実績値 50.4 %			
目標値 55.0 %			

C 課題の整理	事業の評価・課題	B	評価項目（決算時に作成） 主要施策の成果報告書で活用
		常設展示室2の山車の展示替えを行うとともに、今年度は3つの山車組による三番叟(前棚人形)や祭り囃子の披露を行ったことで、市民に祭り文化への親しみをもつてもらう機会を提供できた。また、企画展で展示している資料や、博物館で収蔵している美術品の一部をデータ化し、デジタルサイネージで展示に合わせて公開した。これにより、常時公開していない資料を活用することができた。さらに、令和2年度に作成した半田市文化財ガイドマップに新たに登録・指定された文化財を追加したものを新しく作成し、公共施設や文化財所有者に配布をしたこと、半田市の文化財の周知をすることができる。今後はさらに資料のデジタル化を進め、新しく導入した媒体も活用しつつ情報発信を続けていく必要がある。	

A 後課題解決性に向けた今	今後の事業の方向性	改善推進	評価項目（決算時に作成） 主要施策の成果報告書で活用
	引き続き、文化財に親しむことができる機会の提供や、文化財自体の周知をしていく。また、博物館資料のデータ化をすすめ、既存の機器だけでなく、新しく導入した媒体も使用しながら公開をしていくことで、博物館内外での資料活用を図っていく。		
	観点別評価	必要性 ①市の関与の妥当性 妥当 ②市民ニーズ 高い ③休廃止の影響 大きい	

令和7年度(令和6年度実施事業分)主要事業評価シート					No.	34-2	
PDCA	主要事業名	旧中埜家住宅整備事業	部課名	教育部博物館	担当	榎原	
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 1 - 2 - 2 単位施策： 文化的振興と継承 全体事業期間： 令和 6 年度 ~ 6 年度 全体事業費等： 4,260 千円 会計 一般会計 歳出科目： 09.05.01.04.53					目標項目（予算計上時に作成） 予算見積書で活用	
	事業概要等 事業概要： 重要文化財旧中埜家住宅の後世への継承という大きな目的を達成するため、「保存」及びさらなる「活用」に必要な整備や修理を行う。						
	事業目的： 旧中埜家住宅の保存活用に必要な整備や修理を行い、後世への継承という大きな目的の達成に寄与する。						
	事業内容： 令和6年度は、学習映像資料制作、棟札展示ケース制作、炎感知器設置工事を行う。						
	問題点・課題等： 様々な制約により、多人数の受入や、長期間の公開が困難であり公開時期も限られるが、地域住民や子どもたちに対して、認知度や関心を高める必要がある。						
	予算額 主要事業とする理由 4,260 千円 旧中埜家住宅は貴重な国民的財産であり、半田の文化財を象徴する建物である。本事業はこの建物のさらなる保存活用を行ううえで必要となる整備や修理を行うもので、本市の文化財保護事業における主要事業であるため。						
	財源内訳 市費 2,190 千円 国費 0 千円 県費 0 千円 その他 2,070 千円 得られる成果 重要文化財である旧中埜家住宅の後世への保存継承が図られるとともに、市民の文化財保護意識の向上、地域文化の振興及びまちへの関心向上に寄与する。						
	目標値や目指すべき状態		令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	
	展示等整備の進捗率 実績値 100.0 目標値 100.0		100.0	100.0	—	%	
	実績値 目標値					%	
	実績値 目標値						
D 実得られた成果と	決算額 4,207 千円 得られた成果 重要文化財の附指定となっている棟札の展示ケース及び映像資料の制作を行った。また、炎感知器の設置を行った。						
	成果指標 展示等整備の進捗等 実績値 100.0 目標値 100.0					令和6年度 単位	
C 課題の整理	事業の評価・課題 B 展示ケースの制作により、棟札の複製が安全に展示可能となり、常設展示を充実させることができた。さらに、ふるさと納税で得た寄附金を活用して旧中埜家住宅を紹介する動画資料を作成し、YouTubeで公開することで同建物に関する理解を深める環境を整えた。また、敷地外に炎感知器を設置したことにより、火災発生時にはセコム(株)に連絡が入るようになり安全性が向上した。今後は、公開日数を増やすとともに、地域住民や次世代を担う子どもたちの認知度・関心を高める必要がある。					評価項目（決算時に作成） 主要施策の成果報告書で活用	
A 後課題の方針解決性に向けた今	今後の事業の方向性 拡充推進 国指定重要文化財建物「旧中埜家住宅」の後世への継承という大きな目的を達成するため、今後も「重要文化財旧中埜家住宅における保存活用の基本方針（令和2年3月策定）」をもとに、建物の保存に必要な修理と整備を行い、さらなる活用に取り組む。						
観点別評価 必要性 ①市の関与の妥当性 妥当 ②市民ニーズ 高い ③休廃止の影響 大きい 有効性 ④上位施策への貢献 大きい ⑤成果向上の余地 ない ⑥類似事業の有無 ない 効率性 ⑦コスト削減余地 ない ⑧受益者負担適正化余地 —							

令和7年度(令和6年度実施事業分)主要事業評価シート					No.	34-3
PDCA	主要事業名	企画展開催事業	部課名	教育部博物館	担当	秋山
					内線	23-7173

P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 1 - 2 - 1 単位施策： 学びの推進 全体事業期間： 令和 6 年度 ~ 6 年度 全体事業費等： 1,933 千円 会計 一般会計 歳出科目： 09.05.03.10.50					目標項目（予算計上時に作成） 予算見積書で活用		
	事業概要等	常設展示の内容を補完する展示事業として、テーマや期間を設けた企画展・館蔵品展等を開催する。企画展では主に他館等から貴重な資料を借用し、館蔵品展では主に当館で収蔵している美術品や一般資料などを展示する。						
		事業目的	郷土の自然や歴史、文化について学び触れ親しむ機会を提供する。市民の生涯学習の推進を図り、地域文化の向上に努める。					
			事業内容	企画展「美しい鉱物の世界」、館蔵品展「半田市立博物館 開館40周年記念展」、知多工芸展、博物館友の会作品展、移動美術館等を開催する。				
	問題点			学芸員の専門性を活かして展示内容のさらなる充実を図るとともに、講演会課題等： や博物館講座など様々な関連イベントで来館を促す工夫を行う必要がある。				
		予算額		主要事業とする理由				
			財源内訳	企画展は期間を設けて一つのテーマについて深く掘り下げる展示であり、常設展示とともに博物館の専門的機能である「展示」を構成し、郷土の自然や歴史、文化への理解を深める最も重要な事業の1つである。				
	市費			得られる成果				
		国費		郷土の自然や歴史、文化への興味関心を高めることで、生涯学習の推進及び地域文化の向上に資することができる。				
			県費	目標値や目指すべき状態			令和4年度	令和5年度
0 千円	企画展開催期間内入館者数			実績値 目標値	50,669 55,000	53,016 55,000	— 55,000	人 人
	その他	実績値 目標値						
		0 千円	実績値 目標値					

D 実績られた成果と	決算額 1,931 千円	得られた成果					評価項目（決算時に作成） 主要施策の成果報告書で活用
		「第39回知多工芸展」、企画展「全国鉱物採集の旅 ～猪飼鉱物コレクション～」、開館40周年記念展「博物館のモノがたり」、移動美術館「本当の本物の現実」、「第39回友の会合同展」の年間5本の企画展・館蔵品展等を開催した。					
		成果指標		令和6年度	単位		
		企画展開催期間内入館者数	実績値 目標値	63,248 55,000	人 人		

C 課題の整理	事業の評価・課題	B					評価項目（決算時に作成） 主要施策の成果報告書で活用
		企画展「全国鉱物採集の旅」の来館者数は32,391人（昨対比+12,556人）で、3万人の大台を超えたのは平成11年の特別展以来25年ぶり、博物館40年の歴史の中でも歴代7位の記録となった。期間中には、記念講演会やミネラルファンデーション作り、鉱物さがし体験など様々なイベントを行い好評であった。 9月～11月の開館40周年記念展の枠では、後半に展示を入れ替えて図書館主催の「瀬なおかた絵本原画展」を開催し、小さな子ども連れの親子にも好評だった。また、12月には愛知県美術館が毎年開催している「移動美術館」を初めて半田で開催し、県美術館グッズの委託販売を行うなど、新たな試みを行うことができた。					

A 方課向題性解決に向けた今後の	今後の事業の方向性	改善推進					評価項目（決算時に作成） 主要施策の成果報告書で活用
		引き続き、地域博物館の特性と学芸員の専門性を活かし、資料を通じて地域の自然や歴史、民俗、芸術等について学ぶ機会を提供していく。展示の内容を充実させるとともに、講演会や体験講座などの関連イベントを充実させ、SNSを活用して積極的にPRしていくことで、来館者の興味関心を高め、生涯学習の推進と来館者の増加を図る。また、収蔵資料の整理や調査研究を進め、その成果を館蔵品展や常設展示に反映させていく。					
	観点別評価	必要性		有効性		効率性	
		①市の関与の妥当性 ②市民ニーズ ③休廃止の影響	妥当 高い 大きい	④上位施策への貢献 ⑤成果向上の余地 ⑥類似事業の有無	大きい ある ない	⑦コスト削減余地 ⑧受益者負担適正化余地	

令和7年度(令和6年度実施事業分) 主要事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

教育部博物館

教育部長 森田 知幸

整理No	主要事業名	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
		自己評価	評価内容	方向性	内容
34-1	文化財等公開活用事業	B	常設展示室2の山車の展示替えを行うとともに、今年度は3つの山車組による三番叟(前棚人形)や祭り囃子の披露を行ったことで、市民に祭り文化への親しみをもつてもらう機会を提供できた。また、企画展で展示している資料や、博物館で収蔵している美術品の一部をデータ化し、デジタルサイネージで展示に合わせて公開した。これにより、常時公開していない資料を活用することができた。さらに、令和2年度に作成した半田市文化財ガイドマップに新たに登録・指定された文化財を追加したものを新しく作成し、公共施設や文化財所有者に配布をしたこと、半田市の文化財の周知をすることができた。今後はさらに資料のデジタル化を進め、新しく導入した媒体も活用しつつ情報発信を続けていく必要がある。	改善推進	引き続き、文化財に親しむことができる機会の提供や、文化財自体の周知をしていく。また、博物館資料のデータ化をすすめ、既存の機器だけでなく、新しく導入した媒体も使用しながら公開をしていくことで、博物館内外での資料活用を図っていく。
34-2	旧中埜家住宅整備事業	B	展示ケースの制作により、棟札の複製が安全に展示可能となり、常設展示を充実させることができた。さらに、ふるさと納税で得た寄附金を活用して旧中埜家住宅を紹介する動画資料を作成し、YouTubeで公開することで同建物に関する理解を深める環境を整えた。また、敷地外に炎感知器を設置したことにより、火災発生時にはセコム㈱に連絡が入るようになり安全性が向上した。今後は、公開日数を増やすとともに、地域住民や次世代を担う子どもたちの認知度・関心を高める必要がある。	拡充推進	国指定重要文化財建物「旧中埜家住宅」の後世への継承という大きな目的を達成するため、今後も「重要文化財旧中埜家住宅における保存活用の基本方針（令和2年3月策定）」をもとに、建物の保存に必要な修理と整備を行い、さらなる活用に取り組む。
34-3	企画展開催事業	B	企画展「全国鉱物採集の旅」の来館者数は32,391人（昨対比+12,556人）で、3万人の大台を超えたのは平成11年の特別展以来25年ぶり、博物館40年の歴史の中でも歴代7位の記録となった。期間中には、記念講演会やミネラルファンデーション作り、鉱物さがし体験など様々なイベントを行い好評であった。9月～11月の開館40周年記念展の枠では、後半に展示を入れ替えて図書館主催の「間瀬なおかた絵本原画展」を開催し、小さな子ども連れの親子にも好評だった。また、12月には愛知県美術館が毎年開催している「移動美術館」を初めて半田で開催し、県美術館グッズの委託販売を行うなど、新たな試みを行うことができた。	改善推進	引き続き、地域博物館の特性と学芸員の専門性を活かし、資料を通じて地域の自然や歴史、民俗、芸術等について学ぶ機会を提供していく。展示の内容を充実させるとともに、講演会や体験講座などの関連イベントを充実させ、SNSを活用して積極的にPRしていくことで、来館者の興味関心を高め、生涯学習の推進と来館者の増加を図る。また、収蔵資料の整理や調査研究を進め、その成果を館蔵品展や常設展示に反映させていく。
課等長	1次評価（令和6年度の総括評価）				
B	半田市の歴史と文化を象徴する山車の実物展示は、近隣にはない半田市立博物館を特徴づける展示である。これに加えて山車組による祭り囃子等を披露したことは、展示に深みを与え、本市の山車・祭礼文化の発信や市民に親しみを感じてもらうことに有効であった。また、本市の豪商邸宅の一つであり本市所有の国指定重要文化財建物である「旧中埜家住宅」の整備の一環として動画資料を作成したことは、今後の同建物の効果的な魅力発信に資するものとなった。企画展の開催は、常設展示とともに本館の基幹機能であるが、令和6年度は興味を引く企画内容とすることができ、来場者数の増加につながったことは評価できる。今後も魅力的なテーマによる企画展の開催を目指してもらいたい。				
部等長	2次評価（令和6年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項）				
B	企画展や文化財の公開等を通じて本市の歴史文化の魅力と価値を広く市民に知ってもらうことは、郷土愛の醸成に非常に有効であるが、長期的に取り組むことで効果が現れてくるものであるため、今後も改善を図りながら推進していくもらいたい。また、歴史、文化は地域のつながり生み出すコミュニティの基盤であることから、文化資産の保存継承をまちづくりの視点でとらえ、地域や市民を広く巻き込みながら、保存するだけではなく活用を図ることでまちの活性化、文化資産の保存継承意欲の向上や担い手の確保につなげていってもらいたい。このためにも、文化庁が推奨する「文化財保存活用地域計画」の策定を進めてもらいたい。				